

シグマ研究委員会
昭和 59 年度第 2 回運営委員会議事録

日 時 昭和 59 年 5 月 11 日 (金) 13 : 30 ~ 17 : 30
場 所 原研東海研研 2 - 221 号室
出席者 原田 (委員長, 原研), 梶山 (東北大), 中嶋 (法大), 五十嵐, 菊池,
長谷川, 松浦 (原研)
オブザーバー: 鹿園, 浅見 (原研)

配布資料

1. 前回 (59. 4. 13) 議事録 (案)
2. INDC/P (84) - 8
3. Japanese List for INDC Document Distribution
4. NEANDC, List of Action
5. Japanese Plans of Measurements for High Priority Requirements
6. High Priority Request List (Fusion 関係)
7. 昭和 59 年 5 月 7 日開催の諮問・調整委員会における意見
8. 核データ研究会準備会打合せ会合議事録
9. 核データ研究会プログラム・実行委育会会合メモ
10. 58 年度シグマ特別専門 / 研究委員会議題
11. 5th Intern. Symp. on Capture Gamma - Ray Spectroscopy and Related Topics (10 - 14 Sept. 1984)
12. Editorial (S. Raman, Editor)

議 事

1. 前回議事録確認
資料 1 により確認を行った。その際、原田氏から議題 3 NEANDC 第 24 回会合報告に関連して、次々期の核データ国際会議についての INDC での検討の予定についてコメントがあった。
2. 事務局報告
最近、シグマ委員会関係で発行された JAERI-M, JAERI-memo レポートの紹介があり、資料が回覧された。

3. (p, n) , (α, n) 反応に関する CRP

原田氏から資料 2 により, (p, n) , (α, n) 反応からの放出中性子のスペクトルの測定・解析についての Coordinated Research Programme (CRP) の説明があった。中型・小型の加速器を用いて上記のスペクトルを測定し, 解析してレベル密度を決める目的であるとのことであった。コメント等があったら 5 月末までに原田氏へ連絡することにした。なお, 東北大の織原氏に連絡することにした。

4. INDC Document 配布リストの改訂

五十嵐氏から改訂した配布リスト (資料 3) を IAEA へ送ったことが報告された。また, 他の配布リストも改訂中なので気付いた点があったら連絡して欲しいとの要請があった。

5. NEANDC の宿題について

五十嵐氏から資料 4 の Actions リストにもとづいて, とくに日本に関係ある宿題ならびに処置方について説明があった。このうち, Fusion 関係の High Priority Request の改訂として国内の要望をまとめたもの (資料 6) が紹介された。また, High Priority Requirements のための測定の計画についてのアンケート調査結果 (資料 5) の説明があり, これを送付するとのことであった。

6. 諮問・調整委員会報告

梶山氏から資料 7 により 5 月 7 日に行われた諮問・調整委員会での討議の概要について説明があった。改めて答申書が提出されるとのことであったが, 討議された主な内容は 1) シグマ委員会の運営に関すること, 2) 1984 年核データ研究会のこと, 3) 1988/89 年核データ国際会議に関することであった。

7. アナウンス

五十嵐氏から次の 2 件についてアナウンスがあった。

- (1) 5th Intern. Symp. on Capture Gamma-Ray Spectroscopy and Related Topics (資料 11) (Knoxville, USA 10-14 Sept. 1984)
- (2) Actinide Newsletter への寄稿についての S. Raman 氏からの要請 (資料 12)

8. 原子力学会関係

梶山氏から秋の学会予定, 発表申込の締切り等について説明があり, 学会特別会合の計画を 7 月の運営委で検討することにした。

9. 核データ研究会準備

五十嵐氏から資料8により4月26日の打合せ会について説明があり、その中でプログラム・実行委員（8名）、相談役（4名）が選出されたことが報告された。そしてそのプログラム・実行委員会の第1回の会合（5月10日）について資料9により報告があり、申し合せ事項として1)今年の研究会はアジア地域の核データ研究者との長期的協力の第一歩とする、2) circular は中国、韓国、インド、オーストラリアの4カ国以外のアジア地域各国にも送ることにしたとの説明があった。また、基調テーマ及びプログラムの案について説明があり、討議を行った。とくに「照射損傷とサーベランスの核データ」については多々議論があり一応はすすことにし、次のプログラム・実行委で検討することにした。

原田氏から、IAEAのSchmidt氏からこの研究会に人を派遣したい旨の手紙のあったことが紹介され、OKの返事を出すことにした。

10. 本委員会の準備

昨年の本委員会の議題（資料10）をもとにして、今年の本委員会（6月14日）の議題、時間の配分等について検討を行い、主な議題は次のようにすることにした。

- (1) 主査の挨拶
- (2) 事務局報告
- (3) 大学関係の核データ活動
- (4) 主査改選等
- (5) 諮問・調整委員会報告
- (6) シグマ研究委員会59年度活動計画
- (7) 医学用原子分子・原子核データWGの活動・現状
- (8) 1984年核データ研究会及び1988/89年核データ国際会議

なお、本委員会において追加の本委員、宮原 昭氏（名大プラ研）、北沢日出男氏（東工大）、鹿園直基氏（原研）を提案することにした。

次回は7月20日（金）午後に東京本部で行う予定。